

【2021年3月期第3半期の実績について】																																																																																																																																																									
Q1	第3四半期の業績について、事業環境なども踏まえてセグメント別に教えてください。																																																																																																																																																								
A1	<p>営業活動利益は前年同期比42億円(22.3%)減少の146億円、当期利益(親会社帰属)は9億円(9.2%)減少の85億円となりました。</p> <p>営業活動利益の主な減益要因は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モバイル事業は、1Qにおいて緊急事態宣言発令などの影響による営業時間短縮や来店者数の減少があったことに加え、新料金プランへの期待による買い控えなどがありました。また通信事業における2Qでの一時的コスト増があり、大幅減益となりました。 ・畜産事業では、新型コロナウイルス禍でインバウンド需要が蒸発し外食需要が低迷、国内在庫が積み上がり、加えて中国による豪州産牛肉の輸入停止が相場を押し下げるなど価格下落の影響がありました。3Qに入り徐々に在庫調整などが進みましたが、マイナス解消には至っておりません。巣ごもり需要による内食向け販売の増加はあったものの外食向けの販売が大幅に減少し、苦戦が続いています。 ・工作機械・産業機械事業は、景気悪化の影響を受けて設備投資需要が減退したことや、海外技術者の本邦渡航規制により輸入機械の引渡しスケジュールが遅延していることなどから、減益となりました。 ・油井管事業は、世界的なエネルギー需要の落込みにより北米の原油・ガス生産量が減少し、油井管需要が低迷しています。 <p>(ご参考) セグメント別 営業活動に係る利益/当期利益(親会社帰属)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">(単位:億円)</th> <th colspan="3">営業活動に係る利益</th> <th colspan="3">当期利益(親会社帰属)</th> </tr> <tr> <th>20/3月期 3Q実績</th> <th>21/3月期 3Q実績</th> <th>増減</th> <th>20/3月期 3Q実績</th> <th>21/3月期 3Q実績</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ICTソリューション</td> <td>68</td> <td>64</td> <td>▲4</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>モバイル</td> <td>52</td> <td>31</td> <td>▲20</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>▲2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>電子・デバイス</td> <td>126</td> <td>100</td> <td>▲26</td> <td>63</td> <td>47</td> <td>▲16</td> </tr> <tr> <td>食品</td> <td>5</td> <td>▲1</td> <td>▲6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>畜産</td> <td>9</td> <td>▲7</td> <td>▲16</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>食糧</td> <td>5</td> <td>26</td> <td>21</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>食料</td> <td>19</td> <td>18</td> <td>▲1</td> <td>7</td> <td>18</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>工作機械・産業機械</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>▲4</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>海外</td> <td>10</td> <td>▲5</td> <td>▲15</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エネルギー・化学品 他</td> <td>2</td> <td>11</td> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄鋼・素材・プラント</td> <td>18</td> <td>8</td> <td>▲10</td> <td>11</td> <td>13</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>航空宇宙</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>車両・車載部品</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>▲2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>▲2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>車両・航空</td> <td>18</td> <td>15</td> <td>▲3</td> <td>12</td> <td>10</td> <td>▲2</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>▲2</td> <td>1</td> <td>▲2</td> <td>▲4</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>187</td> <td>146</td> <td>▲42</td> <td>94</td> <td>85</td> <td>▲9</td> </tr> </tbody> </table>							(単位:億円)	営業活動に係る利益			当期利益(親会社帰属)			20/3月期 3Q実績	21/3月期 3Q実績	増減	20/3月期 3Q実績	21/3月期 3Q実績	増減	ICTソリューション	68	64	▲4				モバイル	52	31	▲20				その他	7	4	▲2				電子・デバイス	126	100	▲26	63	47	▲16	食品	5	▲1	▲6				畜産	9	▲7	▲16				食糧	5	26	21				その他	0	0	0				食料	19	18	▲1	7	18	11	工作機械・産業機械	5	1	▲4				海外	10	▲5	▲15				エネルギー・化学品 他	2	11	9				鉄鋼・素材・プラント	18	8	▲10	11	13	2	航空宇宙	12	13	1				車両・車載部品	3	1	▲2				その他	4	1	▲2				車両・航空	18	15	▲3	12	10	▲2	その他	7	6	▲2	1	▲2	▲4	合計	187	146	▲42	94	85	▲9
(単位:億円)	営業活動に係る利益			当期利益(親会社帰属)																																																																																																																																																					
	20/3月期 3Q実績	21/3月期 3Q実績	増減	20/3月期 3Q実績	21/3月期 3Q実績	増減																																																																																																																																																			
ICTソリューション	68	64	▲4																																																																																																																																																						
モバイル	52	31	▲20																																																																																																																																																						
その他	7	4	▲2																																																																																																																																																						
電子・デバイス	126	100	▲26	63	47	▲16																																																																																																																																																			
食品	5	▲1	▲6																																																																																																																																																						
畜産	9	▲7	▲16																																																																																																																																																						
食糧	5	26	21																																																																																																																																																						
その他	0	0	0																																																																																																																																																						
食料	19	18	▲1	7	18	11																																																																																																																																																			
工作機械・産業機械	5	1	▲4																																																																																																																																																						
海外	10	▲5	▲15																																																																																																																																																						
エネルギー・化学品 他	2	11	9																																																																																																																																																						
鉄鋼・素材・プラント	18	8	▲10	11	13	2																																																																																																																																																			
航空宇宙	12	13	1																																																																																																																																																						
車両・車載部品	3	1	▲2																																																																																																																																																						
その他	4	1	▲2																																																																																																																																																						
車両・航空	18	15	▲3	12	10	▲2																																																																																																																																																			
その他	7	6	▲2	1	▲2	▲4																																																																																																																																																			
合計	187	146	▲42	94	85	▲9																																																																																																																																																			

Q2	食料セグメントでは、営業活動利益は前年同期比1億円減少していますが、当期利益は前年同期比11億円の増加となっています。その理由を教えてください。
A2	営業活動利益よりも下の段階利益において、米ドル金利下落による金融収支の大幅改善、前期に売却した事業の税効果を認識したことによる法人税費用の減少等が寄与したものです。
Q3	鉄鋼・素材・プラントセグメントでは、営業活動利益が前年同期比10億円減少していますが、当期利益は前年同期比2億円の増加となっています。その理由を教えてください。
A3	油井管関連では前年同期比▲15億円の営業活動利益減益となりましたが、当該事業の主要子会社における当社グループ出資比率は約50%程度となっており、当期利益では前年同期比▲3億円程度の減益となることが主因です。
【2021年3月期見通しについて】	
Q4	第3四半期までの進捗率は、営業活動利益で60.7%、当期利益(親会社帰属)で65.7%となっていますが、通期見通し達成の見込みについてどのように考えているか教えてください。
A4	第4四半期に入り再び緊急事態宣言が発令され不透明な部分もありますが、前期の4Q後半からコロナの影響が出始めたこと、4Qに利益が偏るICTソリューション事業においてはその影響も限定的であること等から、2Q発表時(2020年10月30日)に修正した業績見通しを据置きとしています。 工作機械・産業機械事業においては年度末にかけて検収が上がる案件が多く、利益が4Qに偏重して計上される傾向があります。また、エネルギー事業は、厳冬による灯油需要への期待があります。
Q5	ICTソリューション事業は、コロナ禍にあっても堅調ですが、事業環境を含め今後をどのように見えていますか。
A5	今期は、年度初めの緊急事態宣言中における新規商談の遅れなどがありましたが、働き方改革や新型コロナウイルス対策など、昨今のテレワークへのシフトを受け、中期的な企業のIT投資による潜在需要は高い状況が続いており、ほぼ前期並みを見込んでおります。 中長期的には、兼松の既存ビジネスとの連携によるDX化促進などによる収益基盤の底上げも進めていきたいと考えています。

Q6	モバイル事業は、5G 対応や新料金（低価格）プランの動きなど、様々な環境変化があります。今後の事業環境や事業の成長戦略について教えてください。
A6	<p>下期以降は、5G 対応の新機種販売が開始され出足は好調ですが、新型コロナ感染拡大の第3波により来店者数はコロナ前に比べ減少傾向です。一方、5G 対応の新機種が増えていることから、今後キャリアでの5G 基地局整備が進むことが期待されています。</p> <p>法人向けについても、企業によるローカル5G 需要が徐々に増えることも想定されることから、これらのニーズに対応できる体制の整備を進めています。新型コロナによるテレワーク関連の需要がモバイル端末のみならず各種ソリューションにも及び、DX の推進に取り組む企業が増えていることから、今後の伸びが大いに期待されます。</p>
Q7	油井管事業は、コロナ禍によるエネルギー需要の減少に伴い生産が減少しています。今後の油井管事業について、どのように見えていますか。
A7	今期においては、当社の個別ビジネスの中で最も厳しい事業の一つと考えており、想定通り3Qまで厳しい環境が継続しています。経費圧縮と政府補助金等で対応しておりますが、欧米のコロナ第2波によるエネルギー需要の減退継続もあり、マイナスの影響を最小限に留める施策を遂行していきます。
【投資について】	
Q8	投資の進捗状況について教えてください。
A8	<p>コロナ禍でも複数の案件が進行しており、パイプラインの案件数は増加しています。一部DD等の遅れはあるものの、ほぼ期初の想定通りで進捗しており、4Qに入ってから、ICテストハンドラーの事業譲受（1/28公表）やデータ・テック社の株式取得（2/1公表）などを実行しました。</p> <p>ネットDERは一時的に0.31倍まで下がっていますが、案件実行に伴い、従来の水準に収れんする見込みです。</p>

【株主還元について】	
Q9	21/3期の年間配当予想は60円、配当性向見通しは38.5%ということですが、変更する予定はありませんか。総還元性向の目標レンジである25～30%を上回りますが、総還元性向の目標を上方修正する考えはありますか。
A9	当期については、年間配当金額を1株当たり60円と期初予想を維持することで、結果的に、中期ビジョン「future 135」の目標レンジから上振れ、配当性向は30%台後半となっています。これは総還元性向の目標を上方修正したという訳ではありませんが、新型コロナウイルスの感染拡大という不測の事態による業績変動がその要因であること、また、当社の財務構造も自己資本比率・リスクアセット倍率等の各指標で安定的水準を維持しており、目標レンジを上振れても、株主の皆さまへの“継続的且つ安定的な配当を優先する”という経営判断によるものです。今期末で「future 135」の折返しとなる前半の3年が終わるタイミングとなりますので、投資の積上げやコロナ収束の状況なども勘案し、株主還元方針の見直しなども検討します。
【その他】	
Q10	年初から緊急事態宣言が発令されていますが、兼松では社員の働き方についてどのように対応していますか。
A10	緊急事態宣言発令中においては、政府指針に従い、全社平均7割のテレワークを目指した体制としています。全従業員および派遣スタッフを対象とし、お取引先との関係や業務内容および業務集中日などにに基づき、出社或いは在宅勤務の運用を行っています。

以上